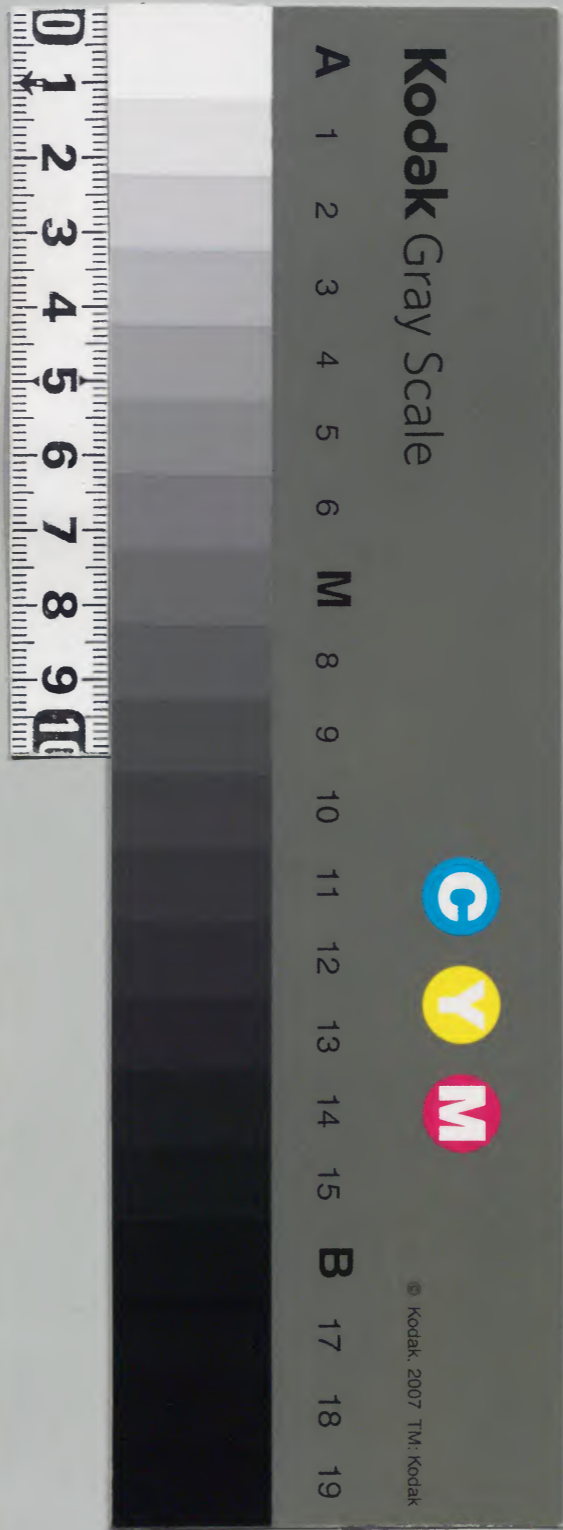


はるりなるもの 関ハ 森ハ 湯ハ  
 帝よりせしとよきある物 忍よりきえ  
 りまじきものする物 あはれなるもの  
 心つきなき物 侘しけなきもの  
 あつけなる物 はつりなきもの

内	閣	文	庫
和	二六七〇八	三	一六
書	八	冊	架
類	號	冊	架

和書門	二六七〇八	六五函	一三冊
類	號	架	冊

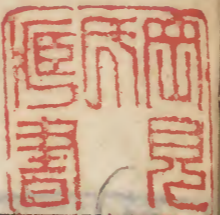
内閣文庫	番號	和	26708
	冊數	13 ( 7 )	
	函號	203	88



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

湯ハ  
名一かきておる物  
らつておる物  
ちつておる物

関ハ  
名より七つおる物  
かきおる物  
俺一けおる物  
あきれたる物  
何つけおる物



はくとお 作物所  
細流云金銀細工乃下  
ある一拾枚云作物  
所在進物所西有別  
當願熟食。時り  
け別あり補せり  
比のり動物あり  
物れややや  
細工乃る時柄絃  
やうありて作付  
れややや  
如け又若きき  
中に細工は呉凡小  
あうんと時柄が  
をわくえとて  
まかいやあま  
中関乃陸公乃  
め、系院の春  
おしやうら  
淑景舎し

はくとお 時り  
子やア  
や  
お  
や  
これが  
何  
とりて  
時柄  
お  
志  
本  
月十日





紋也。唐文ハ唐織のこ

今ハお梅にまきこ

紅梅ハ十一月より二月迄

尾用の色もどりのや

んをこぞ二月十日の

お梅ハ新しねハ萌草

をせしこしやわたり

されどお梅ハ紅もす

紅い紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

濃紅のさき紅梅のさねハ

きねこころわりなれ

ぬハハれだも

りハあもねありとの

やぐりねいやり

異し他のみ入も

ゆるいさ

やぐりねいやり

をい

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま

お梅ハ紅とハうとま



三年二月十五日叙三位

位公は神任大系圖... 百寮訓要抄云采女... 河海ら昔は女房... 女房ハ昔乃河ハ髪上... 女官乃後ノと女房... 人あど役も...

はかのあのみ... のまを今... 大納言教 伊内... 三年は見乃... 三位中將 隆盛... 乃牙の君...

けちや... 下仕... 唐の... 女房... 女官... 女房... 女官... 女房... 女官... 女房... 女官...

はかのあのみ... のまを今... 大納言教 三位中將... 乃牙の君... 女房... 女官... 女房... 女官... 女房... 女官...







私記云御警御警事  
侍臣之間撰堪事之人  
供無定例皆着當色  
袍謂之御鞋。八葉也

人。御家のまきの直衣を  
着て何体とをばら  
らるる人とのこと

内巻の。もし道隆の  
後とも頼親の内巻の  
ことなる蓋しあり

ひ。これ内侍のよみ  
たる推頭時明の女  
一条はほは物産を後

志してはあてハ日本紀と  
こそよくて了りなれど  
のよみと好しむと

と日本紀の居とひい  
人。はと人。い  
か。はと人の君わら

あ。はと人の君わら  
ま。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

あの秋の世に表とつりわらうとて  
いふことなりとわらわれ。殿大納言やわかれわら  
大納言之位乃中將内亮乃等々  
ま。まののりせまふ。は使とてむれ  
内侍乃すけまらりまら。こよひいえま志  
か。せまふを殿きつせはくつとあま  
あ。まののり。まののり。せまふとせせは  
り。又春宮乃はつひ。まののり。は  
い。はと人の君わら。はと人の君わら  
あ。まののり。まののり。せまふとせせは  
ま。まののり。まののり。せまふとせせは

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら

は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら  
は。はと人の君わら



忠臣伝巻五作中

中将とくがいはりかくりまひ

あつたれ

子月乃ささし  
法蔵経進んじや  
えひ乃をひわれや  
和名云半臂 衣名  
桃身葉葉武物云  
近代は祥月小結結  
之往古之例以大緒二  
筋結今世亦知人  
在者今案是半臂と  
りゆとあり冬に結  
ハ生乃穀を身ゆ結  
しと物をして今も  
結受はつてつもの  
ありとてつてあつ  
十二年の心こしり  
は撰の記あつたか  
まじひる 源方弘

子日乃内りじとじり日らむひ乃  
をひわれをむじり月今られまへ人  
乃あふ飯乃團にゆりれごうまれれ  
のゆりありありありと 大なるやや経  
讀経六百卷と独  
はとまへらひひわれをむじり

十二年の心こしり  
は撰の記あつたか  
まじひる 源方弘

十二年乃山こしり乃しりめめめ日  
付とさる。但は草紙よりては往古乃大緒二筋をとち  
結受はつてつものありとてつてあつ  
まじひるいひるいひるいひるいひる  
まじひるいひるいひるいひるいひる  
まじひるいひるいひるいひるいひる

人むらむらむらむらむら  
吳本にききききききき  
つりつりつりつりつり  
これいこと人いりり  
まじひるいひるいひるいひる  
まじひるいひるいひるいひる  
まじひるいひるいひるいひる  
まじひるいひるいひるいひる  
まじひるいひるいひるいひる  
まじひるいひるいひるいひる

あつたれいひるいひるいひるいひる  
まじひるいひるいひるいひるいひる  
まじひるいひるいひるいひるいひる  
まじひるいひるいひるいひるいひる  
まじひるいひるいひるいひるいひる  
まじひるいひるいひるいひるいひる  
まじひるいひるいひるいひるいひる  
まじひるいひるいひるいひるいひる  
まじひるいひるいひるいひるいひる  
まじひるいひるいひるいひるいひる  
まじひるいひるいひるいひるいひる  
まじひるいひるいひるいひるいひる



乃小袖を着し... 練受を用ゆ者せし  
白き平絹乃わたり

さしとりなる... 頭はさしめぬれ... 教上乃大人

頭つき... 花人顔ハ骨首... 上の髪額をれ

つへては... ひと... せよ...

よつきへ食... のは... とつらめを方法

てわ... せよ...

あふれ... 武内省... 孫遠... 姉は

あふれ... 奥列... 衣乃関

あふれ... 武内省... 孫遠... 姉は

あふれ... 奥列... 衣乃関

あふれ... 武内省... 孫遠... 姉は

あふれ... 奥列... 衣乃関

あふれ... 武内省... 孫遠... 姉は

あふれ... 奥列... 衣乃関

あふれ... 武内省... 孫遠... 姉は

あふれ... 奥列... 衣乃関

あふれ... 武内省... 孫遠... 姉は

あふれ... 奥列... 衣乃関

あふれ... 武内省... 孫遠... 姉は

あふれ... 奥列... 衣乃関

あふれ... 武内省... 孫遠... 姉は

あふれ... 奥列... 衣乃関

あふれ... 武内省... 孫遠... 姉は

あふれ... 奥列... 衣乃関

あふれ... 武内省... 孫遠... 姉は

あふれ... 奥列... 衣乃関

あふれ... 武内省... 孫遠... 姉は

あふれ... 奥列... 衣乃関

あふれ... 武内省... 孫遠... 姉は

あふれ... 奥列... 衣乃関

あふれ... 武内省... 孫遠... 姉は

あふれ... 奥列... 衣乃関

あふれ... 武内省... 孫遠... 姉は

あふれ... 奥列... 衣乃関

あふれ... 武内省... 孫遠... 姉は

あふれ... 奥列... 衣乃関

あふれ... 武内省... 孫遠... 姉は

あふれ... 奥列... 衣乃関

あふれ... 武内省... 孫遠... 姉は

あふれ... 奥列... 衣乃関

神あいの 神南極森  
はま今つらふといふ

こひ乃より あり

こころの森 山懐乃木  
懐りやふらふといふ

あり

九月つらふり あり  
例乃り

長谷寺 拾遺云金龜

二丈六尺 十一面  
初元亨 釋書云

は乃りわり 古に格う  
て舟流り

初のつらふ 思あり

文選云二謝靈運 蘋  
萍泛 沉深 菰蒲 冒浪

清 金葉集あり

六帖云 一は花

乃に

湯 温泉

博物志云凡水源有石  
硫黄其泉則温

七久里湯 八代三信流

七久里湯 八代三信流

物乃

乃

あひ乃森 あり  
あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あつこい本は下り  
さうぶらりり世に傳へ

楊貴妃の形は  
師といふも  
いと白ひやうと狭衣  
あきしめる

わさしやうとす  
あきしめる  
あきしめる

韓退之詩云 肌膚生鱗甲  
炉不覺煖 炭炭屢已添

孝行之人の子 余推釋話  
日善事父母為孝 孟子曰

孝經云子日夫孝徳之本  
也教之所由生也

突つていれぬ  
後獄に進入り  
おとれわくふ勤を礼

金剛藏王の  
現在観音 高来弥勒

けりしやう  
あきしめる  
あきしめる

信賢六条左大臣重信  
云の息宣方死れぬ

あつこい本は下り  
さうぶらりり世に傳へ

あきしめる  
あきしめる  
あきしめる

あきしめる  
あきしめる  
あきしめる

あきしめる  
あきしめる  
あきしめる

あきしめる  
あきしめる  
あきしめる

あきしめる  
あきしめる  
あきしめる

あきしめる  
あきしめる  
あきしめる

あきしめる  
あきしめる  
あきしめる

あきしめる  
あきしめる  
あきしめる

あきしめる  
あきしめる  
あきしめる

あきしめる  
あきしめる  
あきしめる

あきしめる  
あきしめる  
あきしめる





二十六七日とらわらわ  
むゆらあちうとらし

年ぐらとくーす  
年とらとくー

朗詠 香火一炷灯  
丁盃 白頭長靴佛名  
経

これよりいふらぬれ  
一説をいふて家の  
深き道あるまふ  
少くとも  
寺といふらわ  
二井も

これよりいふらぬれ  
初所よりある物  
うつわ物屋を建て  
のぢりあふぢりあ  
これよりいふての本  
やせくといふらわ  
下よりいふての味  
いふていふていふて  
わびむらとくー 小神  
年ぐらとくー 衣さき  
あふや いふての髪斗  
いふていふていふて  
つらむらとくー かのつ  
とらむらとくー 思ぢ  
いふていふていふて 無志  
也 あやうき いふていふ  
俱今よりとくー  
大藏経綱目指要録七  
俱舎頌一卷 天親菩薩  
造也 説一切有部作ハ  
品一分別異品五十四頌

色女もきつげあふが 服後 衣さきとら

二十七日とらわらわ つらむらとくー ねがてあて

てあわらとくー だれがあふるあふらにいふが

うげある月乃出のちちくくあふ

いふとあつれあれ 杖の野 年ぐら

すぐーいふ借ららととあひとら

あれさ家いぢぐういふていふて

あふとくーいふていふていふて

くあふていふていふていふて

正月より寺なるいふていふて

雲ぐらとくーいふていふて

いふていふていふていふて

すむらとくーいふていふて

よせくといふていふていふて

き法師いふていふていふて

いふていふていふていふて

いふていふていふていふて

いふていふていふていふて

いふていふていふていふて

いふていふていふていふて

いふていふていふていふて

いふていふていふていふて

いふていふていふていふて

二分別根品七十四項。三  
 分別世界品九十九項。四  
 分別業品一百三十一項。  
 五分別隨服品六十九項。  
 六分別聖賢品八十三項。  
 七分別智品六十一項。八分  
 別定品三十九項。已上六  
 百頌為論之本也

初名云深履其頭短者  
 謂之半鞞。桃葉  
 葉云鞞。深沓同事也。  
 云鞞種ハ赤地乃鞞。鞞  
 帯ハひきりハ皮也昔  
 ハら物有り。常々此の  
 肉共ハ其の心もも  
 行意供奉の何用之  
 又云半鞞ハ沓車の供也

大少世乃中を  
 學化を  
 如才

大少世乃中を  
 觀者れからと云  
 乃さぬ

ていふふふをさけ  
 所燈ふふふ  
 取文をい深長か  
 つれあふも初服  
 うくふふ一少女  
 事有り

よりの善病のくろく  
 きぬくさあうりひきこ  
 あうり。色切ぬあごこ  
 ぶきこも有り。あうり  
 をきこらうりわごあ  
 大内りやあうり  
 うらわらめきそふ  
 立はきそふ。こも  
 付りあがり。あごこ  
 かの河んごちりく  
 とのあごを志り。人  
 えてらぬわごありあ  
 我やんごく佛乃信  
 あうり。けあなゆり  
 今多るまをさるしゆ  
 てあるよ。大少世乃  
 れあうり。あごこ  
 色まうです。あうり  
 もあうり。子あり。常  
 うらら。又人乃有り  
 まうり。あうり。佛  
 又あうり。あうり。佛  
 少子をけけら。あう  
 り。あうり。あうり。

裳背子  
 深履和名  
 半鞞和名  
 摩鞞江漢方言  
 内沓和名  
 外の考  
 住並  
 居並

あうり。色切ぬあごこ  
 ぶきこも有り。あうり  
 をきこらうりわごあ  
 大内りやあうり  
 うらわらめきそふ  
 立はきそふ。こも  
 付りあがり。あごこ  
 かの河んごちりく  
 とのあごを志り。人  
 えてらぬわごありあ  
 我やんごく佛乃信  
 あうり。けあなゆり  
 今多るまをさるしゆ  
 てあるよ。大少世乃  
 れあうり。あごこ  
 色まうです。あうり  
 もあうり。子あり。常  
 うらら。又人乃有り  
 まうり。あうり。佛  
 又あうり。あうり。佛  
 少子をけけら。あう  
 り。あうり。あうり。

みづらうはな〜  
子炊とこ〜  
ア〜イ〜オ〜  
言有はをふん〜  
あれハ〜  
おびら〜  
か〜  
様〜  
装束〜

法師ハ〜  
法グの肩傍の法師ハ  
身〜  
ま〜  
この法師ハ  
こ〜

匣ハハミヤ和名云ハミヤ柄中ハミヤ有  
道可以注水之器也俗  
用椽字所出未詳或  
説云有柄半捕其内  
故呼為半捕

此ともれ人の坊〜  
堂〜  
多れが供〜  
〜

講經鐘也形乃經  
を〜  
を〜  
我〜

我より〜  
後長〜

これ〜  
と〜  
色〜  
法〜  
ま〜  
は〜  
枝〜

ま〜  
法師〜  
む〜  
久〜  
〜  
〜  
〜

盥和名半洗月

人の坊〜

け〜

乃を〜

心〜

あ〜

あり〜



進退也屏凡のこも大  
あゝさうくもくしうら  
くひんか

あつちまははまがら  
あつちまははまがら  
あつちまははまがら

あつちまははまがら  
あつちまははまがら  
あつちまははまがら

あつちまははまがら  
あつちまははまがら  
あつちまははまがら

あつちまははまがら  
あつちまははまがら  
あつちまははまがら

あつちまははまがら  
あつちまははまがら  
あつちまははまがら

あつちまははまがら  
あつちまははまがら  
あつちまははまがら

あつちまははまがら  
あつちまははまがら  
あつちまははまがら

あつちまははまがら  
あつちまははまがら  
あつちまははまがら

あつちまははまがら  
あつちまははまがら  
あつちまははまがら

あつちまははまがら  
あつちまははまがら  
あつちまははまがら

ねりて...  
園遠也...  
費...  
しらめ...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

金鼓和名云  
最勝...  
...

花田...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...







猶どはば身入る。又八月乃最勝。論。七月の相持節。...

まんのちやう。河海。後給。乃器皆。...

あつれり。和名。云。鍛冶。打金。鐵。...

七月。...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

我々の心を  
君の心を  
我々の心を  
君の心を  
我々の心を  
君の心を  
我々の心を  
君の心を  
我々の心を  
君の心を

我が心を推し  
我が心を推し  
我が心を推し  
我が心を推し  
我が心を推し  
我が心を推し  
我が心を推し  
我が心を推し  
我が心を推し  
我が心を推し

廿四

